



自然遊学館 だより



2009 AUTUMN

No.53



■2009.10.26 発行 貝塚市立自然遊学館

■行事レポート

海藻おしば	1
ツバメの塹観察会	2
夏期特別展ミュージアムトーク 「ウミガメのおはなし」	3
大潮の夜の海探検	3
近木川河口カニ釣り&生きもの調べ	5
自然生態園バッタ調べと鳴く虫	8
バッタオリンピック 2009	9

■泉州生きもの歳時記

アカウミガメ	10
ムササビ	11

■館長コーナー

秋5. 鉾山探訪 土倉鉾山跡編	12
-----------------	----

■投稿

近木川の河口でユビナガホンヤドカリが 使っていた貝殻について	14
-----------------------------------	----

■調査速報

和泉葛城山調査日誌 (2009年7月~9月)	15
---------------------------	----

☆よくできました☆	17
-----------	----

◆寄贈標本の紹介	18
----------	----

◆スタッフ日誌	20
---------	----

◆裏表紙	20
------	----

表紙の写真:アカウミガメ。大阪湾に特に夏期、
来遊する。



◆行事レポート

海藻おしば

場所：自然遊学館多目的室

日時：2009年7月5日（日）10:00～14:00

参加者：34名

春先の二色浜の海中は、緑色、紅色、褐色をしたカラフルな海藻たちによって華やかに彩られます。この海藻の持つ造形美を使って、海藻おしば作りを行いました。

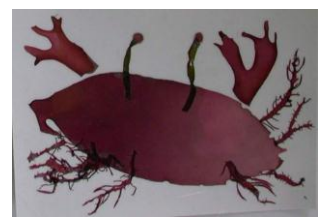
講師には海藻おしば協会認定指導員の河原美也子さんにお越しいただきました。海藻は3月に二色浜の突堤であらかじめ採集しておいたものや、伊豆半島で河原さんが採集して下さっていたものを用いました。参加者の大人も子供も、自分の思い描く作品に向け、どの形、どの色の海藻を使うか迷いながらも、創造することの楽しさを感じている様子でした。



海藻おしばづくりを楽しむ

作製したおしば作品は、後日、参加者へ郵送されましたが、その際、河原さんより～海の森からのメッセージ～として添えられたお手紙を掲載してレポートと致します。

(山田 浩二)



参加者の作品例

～海の森からのメッセージ～

《先日は、自然遊学館7月行事「海藻おしば」にご参加いただきありがとうございました。海藻おしばを楽しく作りながら、海藻は大変カラフルで造形美に富む植物だということがおわかりいただけたのではないのでしょうか。今まで食品として接していた海藻に対するイメージが変わったのではないのでしょうか。

海の中にも海藻の造る森や草原が広がっています。そこは魚介類の住居や産卵の場となり、そのうえ、海水の浄化と言う大切な役割も果たしています。この海の植物たち（主に植物プランクトン）は何十億年もかけて二酸化炭素を減らし、膨大な酸素を放出してオゾン層を形成し、生物が海から陸に移り住めるように地球環境を変えてきました。

今回は、伊豆半島の海藻9種類や大阪湾の海藻（二色浜採集10種類）を使用しまし

た。海藻おしばの材料となる海藻は、海がきれいではなくては育ちません。海が濁ってしまうと植物にとっての「ご飯」となる光が届かなくなり、海藻の森は消えてしまいます。

大阪湾にも豊かな漁場、豊かな藻場があります。山、陸、海は川でつながっていて、すべての水は海へと流れていきます。私たちの生活の影響を受けないように、海の生きものや海藻たちの暮らせる海の自然をいつまでも守っていききたいものです。

さて、皆さんが作られた海藻おしば作品はいかがだったでしょうか？とても素敵な作品がたくさん出来ました。作品は直射日光を当てると色あせてしまいますので、ご注意ください。また、ラミネートが浮き上がる場合があります。その時は中温のアイロンで押さえてください。

また、1月頃から海藻が出始めます。二色浜の海岸に出かけてみてください。この度はありがとうございました。

海藻おしばクラブ代表 河原 美也子 》

ツバメの埜（ねぐら）観察会

場所：貝塚市半田

日時：2009年8月7日（金）18:30～19:30

参加者：28名

今年で3回目をむかえるツバメのねぐら観察会。昨年は5000羽近くが観察され、南大阪のかなり大きな埜として、野鳥の会の一斉調査も入るようになりました。さて、今年はどうだったでしょう。

夕暮れ前、東貝塚駅に集まった参加者の皆さんは、講師である大阪市立自然史博物館の和田岳学芸員と駅を出発し、現地集合の人たちと合流しました。ねぐらであるヨシ原がよく見える位置に座り、あちこちから集まって来るツバメを観察しました。



飛び交うツバメ。でも…（撮影：食野俊男）

ところが、去年と随分空の雰囲気違います。もっとも増えるはず、と思いながら待っていると、旋回するツバメたちは次々にヨシ原にとまりはじめ、あっけなくねぐら入りは終わってしまいました。はじめて観察したみなさんは、それでもすごい、と盛り上がっていましたが、和田学芸員と自然遊学館スタッフ、そしていつも自然遊学館に鳥情報を下さる食野さんは何となく物足りない顔。和田学芸員が発表した今年のツバメの数は約1000羽と、昨年の2割に減ってしまっていました。

ねぐらのある唐間池は普段養魚池として使われていて、カワウの害に悩まされてきました。池の上に、今年からカワウ除けのヒモがはられました。ツバメにとっても水面の上の障害物はあまり気持ちのいいものではないのかもしれませんが。あちらを立て

ればこちらが立たずと言うか、人の暮らしとツバメの暮らしのどちらもが良いバランスをもつというのは難しいのだなあと考えさせられました。はたして、来年はツバメたちはやって来るのでしょうか。注意して観察していきたいと思います。

(西澤 真樹子)



ウミガメについて熱く語る岡本さん

夏期特別展ミュージアムトーク

「ウミガメのおはなし」

場所：自然遊学館多目的室

日時：2009年8月8日(土) 14:00～15:30

参加者：22名

夏期に開催しました特別展「ウミガメ」の一環としまして、ミュージアムトークを行いました。特別展で多大な協力を頂きました日本ウミガメ協議会からゲストスピーカーとして、東京大学大学院生でもある岡本慶さんに来ていただきました。

大阪に住む私達にとって、ウミガメは身近な生きものとはいえ、ほとんど馴染みがありません。陸や淡水に住むカメとウミガメの違いをはじめ、日本近海に住むウミガメ、日本で産卵するウミガメについて、種ごとの特徴や生態を紹介していただきました。とくに日本本土で産卵するアカウミガメについては大阪府での過去の産卵状況(貝塚市の二色の浜海岸でも産卵が確認されています!)や、子ガメが太平洋をまたにして成長していく過程など、最近の研究結果をもとにお話していただきました。

また、ウミガメを取り巻く厳しい環境に

ついては、魚網に掛かって死亡してしまうことや、産卵に適した砂浜の減少、子ガメ放流会の問題点などをあげました。こうした現状をふまえて、日本ウミガメ協議会が神戸空港そばの人工海水池で行っているウミガメ保護活動についても話していただきました。長寿を全うできるウミガメが少しでも増えることを願う岡本さんの熱い気持ち、参加者に充分伝わったようでした。

(山田 浩二)

大潮の夜の海探検 2009

場所：二色浜～近木川河口

日時：2009年8月22日(土) 16:00～20:30

参加者：52名

自然遊学館の夜の行事です。夜に活動する生物について解説してもらうため、大阪府水産技術センターの鍋島靖信さんにお越し願いました。昨年と同じ方法でカニカゴを行事前日に、導流堤の両側、近木川河口側と二色浜側に3箇所ずつ仕掛け、当日、

参加者にさらに2箇所ずつ仕掛けてもらい、合計10個のカニカゴを設置しました。カニカゴを仕掛け終わったらミニ地曳き網で採集をしました。地曳き網は、近木川河口付近で採集したのですが、水上バイクが近くで運転していたせいか、魚があまり捕れませんでした。



カニカゴで捕れたマダコ



採集物の説明をしていただいた鍋島靖信先生(右)

その後は、近木川河口付近で自由採集してもらい、子供達は、石をひっくり返してカニを取ったり、タモ網を持って魚を捕まえていました。採集したのは、多くが甲殻類でした。採集が終わった後は、きれいな夕日が沈むのを見ながら、夕食を食べました。

夕食を食べ終わったら一度集合してもらい、仕掛けたカニカゴを引き上げに行きました。二色浜側は、イトマキヒトデやケブカヒメヨコバサミ、クサフグなどが捕れました。近木川河口側の方は、タコが6匹も捕れました。

最後に、海に光を照らして、光につられてやってくる生物やプランクトンを採集したものを顕微鏡映写機でスクリーンに映し出し、観察しました。子供達はモゾモゾと動く見たこともない生物たちに釘付けのようでした。プランクトンやカニカゴで採集した生物について、鍋島先生に説明をしていただき、行事を終えました。

【観察できた生物】

地曳き網 (1回目)

魚類:ウミタナゴ・コショウダイ・マハゼ

甲殻類:ケフサイソガニ

貝類:マガキ(殻)

海藻類:オゴノリ・アナアオサ・アオノリ類

地曳き網 (2回目)

魚類:キュウセン・クサフグ

タモ網等での採集

魚類:クサフグ

甲殻類:ガザミ・ケフサイソガニ・イソガニ・カクベンケイガニ・アカテガニ・ユビ

ナガホンヤドカリ

カニカゴ

※①～⑤は、①番が岸側で、沖の方へ向かって番号をふりました。

二色浜側

①：イトマキヒトデ 4 匹・ケブカヒメヨ
コバサミ

②③④：採集なし

⑤：クサフグ 2 匹

近木川河口側

①：マダコ 1 匹・アラムシロガイ

②：アラムシロガイ

③：マダコ 1 匹・アラムシロガイ

④：マダコ 3 匹

⑤：マダコ 1 匹・食べられたタコの
残骸

プランクトンネットでの採集

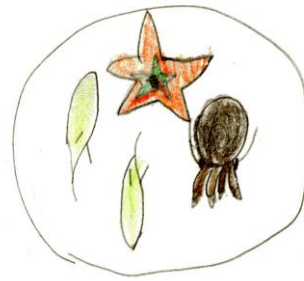
ユレモ・ケンミジンコ・ヤコウチュウ・
ヤムシ・エボシミジンコ・コシノディス
カス（珪藻）

※これらの採集は、大阪府から特別採捕許可を受けて行いました。

（鈴子 勝也）

【参加者の声】

カニがカニ捕り網に入らなくて残念でしたが、クサフグやヒトデやヤドカリが捕れてうれしかったです。今度も行きたいです。地曳網でキュウセンやコショウダイの子どもなどが入ってうれしかったです。



（小学 2 年生 千地 芳樹）

カニ捕りや地曳網をして色々な魚の話聞かせていただきました。地曳網の形が立体的で集魚性に優れた型をしていることも、自然遊学館の小ぶりの網だからこそ、よく見ることができておもしろかったです。

夜には仕掛けておいたカニカゴを揚げたり、プランクトンを採集し、顕微鏡でよく見える小さなプランクトンをパソコンにつないで、大画面に映して見せてもらいました。家では絶対にできない体験をさせてもらいました。ありがとうございました。

（千地 由紀子）

近木川河口カニ釣り & 生きもの調べ

場所：近木川河口

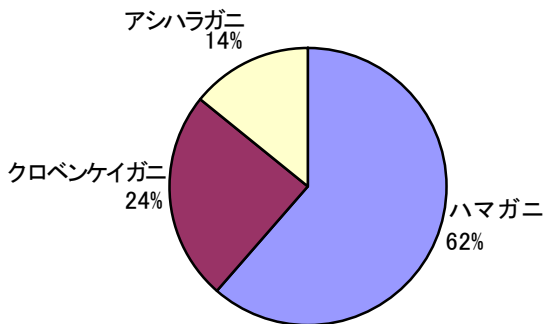
日時：2009 年 9 月 5 日（土）10:00～15:00

参加者：54 名

毎年、この時期に恒例の行事で、午前中は近木川河口左岸の臨海線下周辺のヨシ原で例年通り、カニ釣りを行いました。地元でスイカ畑を営んでいる方が、スイカの下にヨシを敷くからとヨシ狩りを時々行っているのですが、ヨシ原は年々広がってきて

いて、イセウキヤガラおびやの生息域を脅かしています。

40分間のカニ釣りを楽しんだ後、釣ったカニの計測です。参加者が自分で釣ったカニの入ったバケツを持って、計測所に集まりました。スタッフが種名と雌雄を確認し、ノギスで測った甲羅の横幅を記録していきましました。参加者全員のトータルの結果はハマガニ 43 匹、クロベンケイガニ 17 匹、アシハラガニ 10 匹で、合計 70 匹でした（割合は下図参照）。昨年は合計が 115 匹でしたので、減少しましたが、この 3 種については捕れた個体数の多い順番は変わりませんでした。



釣り上げられたカニの種構成

計測の結果、大物 3 位までの甲幅の記録と採集者を下に記します。

ハマガニ

1. 50.3 mm ♂ 豊山 ひろと
 2. 48.5 mm ♂ 渡辺 いこい
 3. 45.9 mm ♂ 江本 大地
- ※ 平均 35.1 mm

クロベンケイガニ

1. 33.9 mm ♂ 吉川 ゆうき
 2. 31.0 mm ♀ 江本 大地
 3. 29.0 mm ♂ 渡辺 怜真
- ※ 平均 24.3 mm

アシハラガニ

1. 31.8 mm ♂ 安里 ゆうすけ
 2. 29.4 mm ♀ 江本 大地
 3. 27.5 mm ♂ 渡辺 いこい
- ※ 平均 24.6 mm

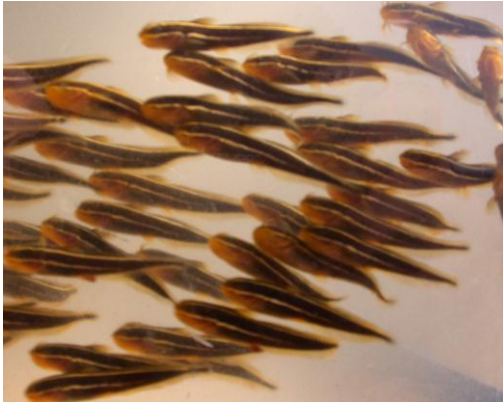


ヨシ原でカニ釣り

午後からは貝にお詳しい児島格さんにも来て頂き、海辺の河口に移動して、生きもの観察を行いました。今年は、河口左岸の底質の環境が例年に比べ、厚く砂に覆われた場所が多く、湿地というところが少なくなっています。

採集は、潮のひいた波打ち際を中心に礫をめぐったり、テトラポッドに固着したものを探したりして行われました。近木川河口では珍しい、ゴンズイ玉と呼ばれるゴンズイの幼魚の群れがタモ網で採集され、子供達に大人気でしたが、「この魚の胸鰭や背鰭には毒棘があり危険だから」と、触らせ

ないことを徹底させました。



ゴンズイ玉

また、スコップで砂泥を掘ると、いつになくたくさんのヒモイカリナマコが採集されたことも驚きでした。このナマコにはヒモイカリナマコツマミガイという巻貝が体内に内部寄生している場合があるので、採集されたヒモイカリナマコの中から適当に



高密度に生息していたヒモイカリナマコ



男里川河口で見つかったヒモイカリナマコツマミガイ

50 個体を調べてみましたが、その貝は見つかりませんでした。近木川河口では、まだその貝が見つかったという記録はありませんが、男里川河口で今年 6 月 20 日に採集したヒモイカリナマコ 3 個体中、1 個体にその貝が寄生していました。

近木川河口(前浜)の生きもの観察会 20090905

グループ	和名
刺胞動物門 花虫綱 イソギンチャク目	タテジマインギンチャク
軟体動物門 多板綱 クサヅリガイ科	ヒザラガイ
腹足綱 ヨメガカサガイ科	ヨメガカサ
	マツバガイ
	ユキノカサガイ科
	コウダカアオガイ
	ニシキウスガイ科
	イシダタミガイ
	コシダカガンガラ
	アマオブネガイ科
	イシマキガイ
	タマキビガイ科
	タマキビ
	アラレタマキビ
	マルウスラタマキビ
	コビトウラウスガイ
	カリバガサガイ科
	シマメノウフネガイ
	D
	タマガイ科
	アダムスタマガイ
	D
	アツキガイ科
	イボニシ
	D
	アカニシ
	D
	フトコロガイ科
	ムギガイ
	D
	ムシロガイ科
	アラムシロガイ
有肺亜綱 カラマツガイ科	カラマツガイ
二枚貝綱 イガイ科	ユウロエンカワヒシリガイ
	ホトギスガイ
	オミマガシフ科
	オミマガシフ
	D
	イタボガキ科
	マガキ
	チドリマスオガイ科
	クチャバガイ
	D
	シジミ科
	ヤマトシジミ
	D
	マルスダレガイ科
	アザリ
環形動物門 多毛綱 カンザシゴカイ科	カサネカンザシ類
	ミズヒキゴカイ科
	ミズヒキゴカイ
貧毛綱	イソミズ
節足動物門 顎脚綱 まん脚類	タテジマフジツボ
	シロスジフジツボ
軟甲綱 ホシヤドカリ科	ユビナガホシヤドカリ
	ヤドカリ科
	ユフヨコバサミ
	テナガエビ科
	ユビナガスジエビ
	ガザミ科
	ガザミ
	タイワンガザミ
	イワガニ科
	クササツガニ
	クロベンケイガニ
棘皮動物門 ヒトデ綱 イトマキヒトデ科	イトマキヒトデ
	ナマコ綱 イカリナマコ科
	ヒモイカリナマコ
脊索動物門 硬骨魚綱 ハゼ科	マハゼ
	チチブ
	ボラ科
	ボラ
	ウナギ
	ゴンズイ
	フグ科
	クサフグ

凡例 D:打ち上げの死骸のみ

(山田 浩二)

自然生態園バッタ調べと鳴く虫 2009

場所：貝塚市二色市民の森

日時：2009年9月12日(土) 16:00～20:30

参加者：15名(バッタ調べ)、7名(鳴く虫)

二色市民の森自然生態園の「バッタの原っぱ」で例年通り、バッタ調べを行いました。講師は日本直翅類学会の森康貴さんをお願いしました。

あいにくの雨で、草が濡れている中を、手掴みでバッタやコオロギを10分間、採集してもらいました(図1)。毎年30分間採集を行ってきたので、昨年までの記録とは比較できませんが、以下のリストに示した8種61個体が採集されました(表1)。



図1. 雨の中でのバッタ調べ

表1. 自然生態園バッタの原っぱのバッタ調べ

2009年9月12日 16:20～16:30 15名 雨の中10分調査

雨中10分間の調査なので、種数と個体数は参考記録

同定:森 康貴

科	種	成虫	幼虫
キリギリス科	クビキリギリス		5
	ホシササキリ	12	3
ツユムシ科	ツユムシ		1
コオロギ科	エンマコオロギ	5	1
	ハラオカメコオロギ	1	
	ツツレサセコオロギ		1
オンブバッタ科	オンブバッタ	3	
バッタ科	マダラバッタ	20	9

表2. 市民の森の鳴く虫

2008年9月12日 19:10～19:45 7名 雨上がり

同定:森 康貴

科	種	姿	鳴き声
ツユムシ科	セズジツユムシ	○	○
コオロギ科	エンマコオロギ		○
	ハラオカメコオロギ		○
	ツツレサセコオロギ		○
ヒバリモドキ科	シバズ		○
	マダラスズ		○
マツムシ科	アオマツムシ		○
	ヒロバネカンタン		○
カネタタキ科	カネタタキ		○

セズジツユムシは市民の森で初記録(30種目)。

予備調査でタンボコオロギを記録・採集(29種目)。

個体数は、森先生が各種1個体の名前を教えて、あとは子どもたちに種ごとに分けてもらい数えました。森先生からは、幼虫と成虫、オスとメスの見分け方や、それぞれの種の生活方法などを教えてもらいました。

日が暮れてからは、鳴く虫の声を聞く会です。激しい雨が止んだ後の観察会になりました。樹上からはアオマツムシとカネタタキ、草上からはヒロバネカンタン、地面

からは大小のコオロギの鳴き声が聞こえました（表2）。その中で、植え込みから鳴き声がして、皆で姿を確認したセスジツユムシは、これまで市民の森では確認されていなかった種で、バッタ目として30種目となりました。

予備調査を行った8月30日に確認されたタイワンエンマコオロギとタンボコオロギの鳴き声は、行事当日には残念ながら聞こえませんでした。前号で紹介したヤブキリが市民の森28種目で、8月30日に鳴き声を聞き、1♂を採集したタンボコオロギが29種目です。以下に8月30日に行った予備調査の結果（市民の森と人工島（二色南町））の鳴く虫のリストを示しておきます。

8月30日、市民の森、11種

サトクダマキモドキ、エンマコオロギ、タイワンエンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、ツツレサセコオロギ、タンボコオロギ、シバズ、マダラスズ、アオマツムシ、ヒロバネカントン、カネタタキ

8月30日、人工島、12種

エンマコオロギ、タイワンエンマコオロギ、ミツカドコオロギ、ハラオカメコオロギ、ツツレサセコオロギ、タンボコオロギ、シバズ、マダラスズ、マツムシ、アオマツムシ、ヒロバネカントン、カネタタキ

（岩崎 拓）

バッタのオリンピック 2009

日時：2009年9月26日（土）10:00～12:00

場所：貝塚市馬場たわわ

参加者：18名

名越の千石荘の鳴く虫行事の際に、バッタのオリンピックをしたことがあります。単独での行事は初めてです。講師には日本直翅類学会の加納康嗣先生にお越しいただきました。

まずは奥出池のまわりで、バッタのオリンピックに参加する「選手」を探しました。適度に草刈りされていて、思いのほか、トノサマバッタやクルマバッタモドキなど飛びそうなバッタが次々に採集できました。途中、加納先生からバッタクイズの出題もあり、バッタの形や生活についても勉強することができました（図1）。



図1. バッタクイズの時間

選手集めの時間が終わると、いよいよバッタのオリンピックの開催です。ササキリの仲間やコオロギの仲間は、残念ながら参加できません。参加したバッタは7種46匹で、結果は以下の通りでした。各部門のエ

ントリー数、最長距離、優勝者の名前を示しました。最長不倒は、石井ときあさんが採集したトノサマバットのオスで、50m以上飛び、距離を測ることができませんでした。

馬場たわわ「バットのオリンピック」
飛翔距離と部門別優勝者
エントリー：7種46匹

ショウリョウバッタ (♀)	9匹	
4m60cm		石井ときあ
ショウリョウバッタ (♂)	1匹	
5m90cm		百々あつひろ
クルマバッタモドキ (♀)	12匹	
9m50cm		塩谷ごろう
クルマバッタモドキ (♂)	3匹	
23m65cm		百々あつひろ
マダラバッタ (♂)	3匹	
5m60cm		西浦ゆうた
ツチイナゴ (♀)	1匹	
65cm		西浦かな
ツチイナゴ (♂)	1匹	
23m		塩谷ごろう
コバネイナゴ (♂+♀)	4匹	
2m27cm		西浦ゆうた
トノサマバッタ (♀)	7匹	
32m60cm以上		西浦かな
トノサマバッタ (♂)	3匹	
50m以上		石井ときあ
オンブバッタ (♀)	2匹	
75cm		百々あつひろ

その他、採集されたけど参加しなかったバッタ目昆虫は、ツユムシ、ホシササキリ、ウスイロササキリ、クビキリギス幼虫、エンマコオロギ、シバズでした。参加したバッタはそのまま逃がし、これらの参加しなかったキリギリスとコオロギの仲間も逃がして行事を終えました。

(岩崎 拓)

◆ 泉州生きもの歳時記

アカウミガメ

8月8日、今日は現在開催中の特別展「ウミガメ」の一環、ミュージアムトークが行われる日。折りしも、そんな日の朝、二色浜公園事務所から「死んだウミガメが海岸にプカプカ浮いとるよ」との電話が舞い込んできたのでした。ウミガメにとっては危険の多い大阪湾に入り込んだがゆえの悲しい最後に胸を痛めつつも、貝塚市の海岸で、今までウミガメの死亡漂着の記録はなく、なんともタイムリーな海からの贈り物に、まだまだ当館も「(強運を)持っているな～」と感じ入ってもしました。

早速、保田、岩崎と3人で現場の海浜緑地に向かい、回収作業に入ったのですが...でかくて重そうなアカウミガメのオスが岸近くに浮いており、足場は玉石の浜で、踏ん張りがききません。手をこまねいていると、「昨晚からこのカメ、ここに浮いとったよ」と近くにいたジェットスキーをするために来ていた方たちが集まってきました。そして、スロープからジェットスキーを引き上げるようにして回収しようということになり、ジェットスキーレスキューや公園事務所スタッフの方達のご協力を得てロープでウミガメを引っ張り、車に牽引した台車に載せて回収することができました。

外傷は特に見当たらないものの、内臓腐敗によるガスで膨らんでいました。臭いはさほど感じられませんでした。また、甲羅の後方には多数のムラサキイガイが付着しており、よくみるとヨコエビ類もたくさん体表をうごめいていました。



貝塚市に死亡漂着したアカウミガメ

持ち帰ったアカウミガメはとりあえず、館の横に置き、ミュージアムトークに集まったウミガメに関心のある方々にお見せすることができました。皆さん一様に貝塚市の海岸でウミガメが漂着することに驚いていたようです。講演にお越し下さったウミガメ協議会の岡本さんたちも、「大阪湾で雄の個体は珍しい」と、上腕骨や生殖腺のサンプル提供を申し出、研究に役立てるとのことです。

このウミガメの死を無駄にすることの無いよう、剥製標本にすることを急遽決め、ドライアイスでこれ以上の腐敗を抑え、翌日、剥製屋さんまで運搬しました。来年には館内でお見せできると思います。

【データ】

死亡漂着個体：アカウミガメ ♂

甲長（SCL）86.1cm、甲幅（SCW）64.2cm

漂着場所：貝塚市二色の浜海浜緑地公園

回収日：2009年8月8日 午前9時半

解剖の結果、喉に小魚が見つかり、定置網での混獲による死亡が疑われた。

（山田 浩二）

ムササビ

9月23日、貝塚市蓄原にお住まいの左神さんから、ご自宅の農業用ハウスに現れたムササビの写真を寄贈していただきました。左神さんが見慣れない動物がハウスに入っていくのを見つけ、カメラを持ってのぞき込んだら「豚鼻の動物が飛び出てきた」そうです。ピンクの鼻、まんまるの目、立派な皮膜！まさしくムササビです(写真1)。



写真1. ムササビ登場！

ムササビは齧歯類。樹上で暮らすリスのなかまです。英語では flying squirrel (飛びリス) と呼ばれています。小柄な猫くらいの大きさで、ふさふさとした長い尻尾があります。両手両足の間に皮膚が伸びて、大きな膜をつくっています。高い木の上に登り、空中にとびだし、この皮膜を広げてグライダーのように滑空して移動するかわった動物です。

左神さんは、雨漏りよけとして丸い一斗缶をハウスの屋根近くに設置していました。雨漏りのことは忘れ、一斗缶はほっておかれました。これがムササビ母さんにとってはとても素敵な巣穴に見えたのでしょうか。ムササビは太い木にあいた穴（樹洞といい

ます)を巣穴にするからです。中をのぞくと、子ムササビが二匹丸くなっていました(写真2)。



写真2. 子ムササビ

ムササビは大阪府レッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されています。府下での記録は多くなく、特に繁殖となるととても貴重な記録となります。貝塚市がいつまでもムササビがのんびりと子育てができる環境でありますように。

(西澤 真樹子)

◆館長コーナー

秋5. 鉱山探訪 土倉鉱山跡編

いつも「今年の天候は異変だ」といわれるようにここ数年異状的な気候が続いています。今年は梅雨に入ってもなかなか梅雨前線が発達せず、空梅雨となりました。ところが7月の半ばを過ぎると、今度は堰を切ったように大雨が降り出しました。それも比較的長期間降りました。8月の半ばを過ぎる頃からは日照り続きで、9月もほとんど雨はありませんでした。

それでもナスビたちはがんばり続け、たくさん実をつけるものですから私もそれに報いようと水遣りに力を注ぎました。水をやると晴天が続くものですから、たくさん花をつけ、すぐに実も大きくなりました。そんな繰り返しで9月は休みもたくさんありましたが、鉱山の探検はあまり出来ませんでした。

9月25日金曜日午前4時出発しました。前日から嬉しくてあまり眠ることが出来ませんでした。京都東出口を出て湖西道路で志賀まで、それからはかつて青年時代毎週ほど通った161号線です。上達しないスキーに敦賀まで飽きもせず続けたものです。

西浅井から木之本へ303号で金居原にあります土倉鉱山跡にたどり着いたのは午前11時。ひたすら土倉鉱山を目指したのですが、それは大変な失敗だったのです。早朝出発、特にまとまった朝食もせずその鉱山を探すことに力点を置いたものですから到着した瞬間に空腹であることを認識したのでした。たいていの鉱山跡探検は山中にあ

りますので、無駄になっても食料の確保はしてきました。でも、今回はペットボトルに 150cc ほどしか残っていないお茶があるのみです。

ところが服を着替えて歩き始めますと、カラスアゲハラしいのが水溜りでちょろちょろしているではありませんか。その透き通った群青の輝きに心は癒され、空腹はすっかり忘れてしまいました。



その水溜りから顔を上げますと巨大な選鉱所跡が見えてきました。こんな大きな鉱山がこんな山深いところにあったとは驚きです。



(選鉱所跡)



(選鉱所跡)

HP「e-con の道を行く」には、「湖国と文化 56 号」の特集「地図から消えた村」があり、その一文に「私の故郷、土倉鉱山」（白川雅一）があると記されています。その文章から、「この選鉱所に移されたのは昭和 12 年であり、従業員 2000 人、最盛時には銅鉱年産 18000t であった。」と抜粋されています。

従業員 2000 人、家族も一緒だとすれば大変な人口の村です。私の通っていた敦賀のスキー場は豪雪のところでした。その対面にある木之本も同様の雪国です。その雪国で何千人も生活するには食料のことだけ考えてもしんどい状況があったと推察できます。そんな当時のご苦勞を頭に入れながら選鉱所の写真を撮ったのでした。

いよいよズリの採集です。このズリからジャスパー(碧石)を採集するのが今回の目的です。



(ジャスパーが一杯のズリ)

ジャスパーは赤と緑とがあるのですが、緑は見つけることが出来ませんでした。30分ほど採集したでしょうか。その間、空腹のことなど全くわすれていました。

ここから食べ物にありつくためには3,40分はかかりそうです。そうだ、過去何回か行ったことのある須賀谷温泉に行こう、そこならおいしいものを食べさせてくれる食堂もあるし、効果たっぷりの温泉に入ること出来ます。そう決断すると、愛車はすべるように走り出したのでした。

(川村 甚吉)

◆投稿

近木川の河口でユビナガホンヤドカリが使っていた貝殻について

ユビナガホンヤドカリは甲長が1 cm位の北方起源のヤドカリで、近木川の河口にできる干潟にもたくさんいます。平成21年7月23日、僕たちはその干潟で、ユビナガホンヤドカリをたくさん拾い集め、使っていた貝殻の種類を調べました。

その結果、アラムシロガイがもっとも多く、全採集個体480個体のうち、368個体を占めていました。その次がイボニシの33個体で以下、タマキビ26個体、レイシガイ21個体と続きます(表1)(図1)。

ヤドカリが利用していた貝殻9種の中では、ムギガイが最も小さく、微小な個体が入っていました。ユビナガホンヤドカリは秋期より産卵に入るため、これらの個体は昨冬生まれたものと思われます。このような微小な個体はタマキビの小さい殻にも入っていました。逆に甲長が2 cm位の大きな個体も少しあり、レイシガイやイボニシの殻を利用していました。

採集した貝殻を大(殻高2 cm以上)、中、小(殻高7~8 mm以下)に分けてみると、中が圧倒的に多く、大や小は少ないです(図2)。昨冬生まれた小さい個体が少ないのは、小さすぎて採集できていないのだと考えています。

採集中、ヤドカリが入っていない貝殻はほとんど見ませんでした。また、生きた巻貝も見ませんでした。貝殻は足りているのでしょうか。他にもいろいろ疑問がわいて

きます。また、調べてみたいです。

種類	個数
アラムシロガイ	368
イボニシ	33
タマキビ	26
レイシガイ	21
ムギガイ	15
コシダカガンガラ	7
イシマキガイ	4
イシダタミ	4
アダムズタマガイ	2

表1 ユビナガホンヤドカリが利用していた貝殻の種類と個数

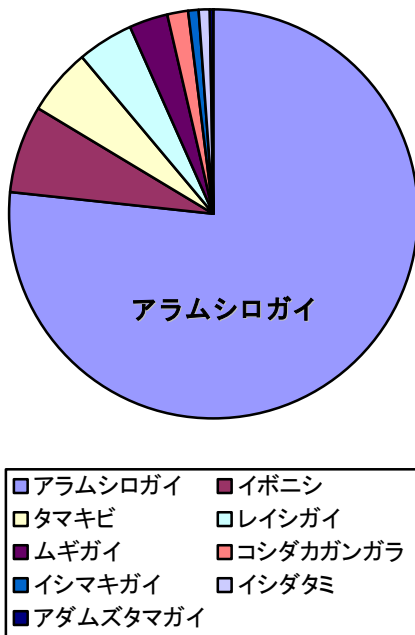


図1 利用していた貝殻の円グラフ

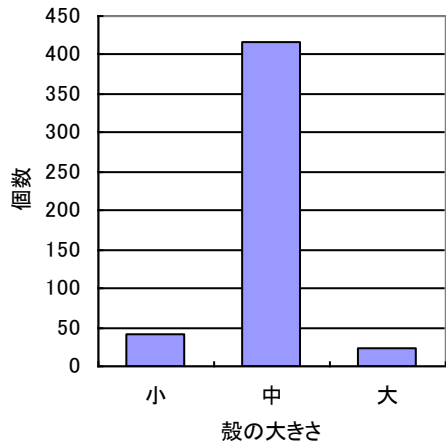


図2 ヤドカリの殻の大きさ

(岸和田市立光陽中学校科学部
油谷 冬威、藤原 弘貴、覚野 信行)

◆調査速報

和泉葛城山調査日誌

(2009年7月～9月)

7月9日、和泉葛城山昆虫調査

まだハルゼミが鳴いていました。ヒメギスの長翅型を網に入れたものの、写真を撮ろうとした時に逃がしたのが大失敗です。チョウではジャノメチョウが飛び始めました。地面や樹幹で一番目につくアリはムネアカオオアリです。アオハナムグリ、オオキバハネカクシ、クロナガキマワリなど甲虫の割合が高く、クロトラカミキリの写真を撮ることができたのが収穫でした。ほかに、自然遊学館に標本がないものは、ナシカメムシ、ウツギハバチなどを採集しました。



クロトラカミキリ

8月1日、和泉葛城山Aコース植物調査

上久保文貴先生、湯浅幸子の植物班に同行しました。春日橋から登山道Aコースで作業道との合流点まで登りました。一滴の雨にも当らなかつたのが不思議なくらいの曇天で、カメラの技術のない自分には撮影が難しい条件でした。イワタバコの花がたくさん咲いているのに、良い写真が撮れません。上久保先生に「ホウライカズラの写真を撮って」と言われたものの、光量の調節がままなりません。下の写真はカンアオイです。テイショウソウにもスマレ類にも似ていて、自分には区別が難しいものでした。



カンアオイ

8月13日、和泉葛城山昆虫調査

アブラゼミ、ニイニイゼミ、ヒグラシの鳴き声が聞こえます。大阪府レッドリストの指定種としては、準絶滅危惧のヒトコブ

ササキリモドキがBコースで多く確認されました。ニホントビナナフシはまだ幼虫でした。チョウ類もちらほらみられましたが、ダイショウセリだけを展示標本用に採集しました。

撮影用にコロギスの♀を採集したのですが、カメラに向かって前翅と後翅を広げて、前後に行ったり来たりする威嚇行動ばかりとって、なかなか撮影させてくれません。威嚇行動とは言いながら、どこかユーモラスな動きにも見えます。

代わりと言ってはなんですが、オオトリノフンダマシというクモの写真を載せました。何だか宇宙人の顔のようにも見えます。ススキの葉上において、こちらに気づいて糸をたらせて落下したのですが、その様子がとても「生きもの」には見えません。あわてて地面を探し、事なきを得ました。



オオトリノフンダマシ

確認種数は多かったので、馴染みの種が多く、自然遊学館に標本がないものとしては、オオチャイロハナムグリ、ツチスガリ、ヤマモモハムシ、フタスジベッコウなどを採集しました。

9月9日、和泉葛城山昆虫調査

太陽が雲に隠れると肌寒いほどです。エゾゼミが1匹だけ鳴いていました。クサビウンカ、ニホンカミナリハムシ、ガロアオナガバチ、フタスジスズバチなど、自然遊学館に標本がないものがそれなりに採集できました。下の写真は、ブナの樹洞の入口で越冬の準備をしている(?) ホソアシナガバチです。



ホソアシナガバチ

9月10日、和泉葛城山山頂植物調査

上久保文貴先生、湯浅幸子の植物班に同行しました。下の写真は、ユリ科のホトトギスの仲間です。こんな妙な形の花を見たことがありませんでした。この花の紫色の斑点が、鳥のホトトギスの胸の模様に見えるのが名前の由来だそうです。



セトウチホトトギス (同定: 上久保文貴)

HP用に、アカシデ、ケンポナシ、アブラチャン、ミヤマシキミの実の写真を撮りました。8月の中旬以降、雨が降っていませんでしたので、キノコの写真はあらかじめいたのですが、ブナの倒木にクチキトサカタケが生えているのを撮影することができました。

(岩崎 拓)

☆ よくできました ☆

夏休み自由研究相談は、以下の13件を受け付けました。

- 虫の名前調べ
- サザンビーチの貝調べ
- ウミガメについて
- 土の中の生物
- 昆虫とクモの同定
- 昆虫の標本作製
- 水生昆虫の同定
- セミの抜け殻調べ
- 淡水プランクトン
- 串本と二色浜の海岸動物
- 二色浜の植物押し葉
- 街路樹調べ
- 大潮の夜の海探検の魚

◆寄贈標本の紹介

以下の方々より標本を寄贈していただきました。お礼申し上げます。

(※2009年9月分まで)

<鳥類>

◆山口進さんより
オオルリ 巣1点
貝塚市大川 2009年8月採集

◆匿名さんより
ミュビシギ 死体1点
貝塚市近木川河口
2009年9月19日採集

◆泉谷雅美さんより
キビタキ 死体1点
貝塚市二色 2009年9月12日採集

<爬虫類>

◆二色海浜緑地公園より
アカウミガメ雄 死亡漂着個体1点
船降ろしスロープ横 2009年8月8日採集

◆江本大地さんより
ヒバカリ 死体1点
箕面市箕面公園 2009年8月20日採集

◆小吉秀樹さんより
イシガメ 生体1点
貝塚市奥水間 1999年5月採集
約10年間飼育しておられた個体を譲り
受けました。

<魚類>

◆鈴子晴久さんより
ホシノハゼ 生体1点
深日港沖 2009年6月28日採集

◆寺田拓真さんより
ウナギ 生体1点
岬町落合川 2009年7月30日採集
チョウチョウウオ 生体1点
和歌山県印南町 2009年8月29日採集

◆大岡海渡さんより
ウナギ幼魚 生体1点
近木川河口 2009年8月3日採集

<軟体動物>

◆鈴子佐幸さんより
ウミヒメカノコ 1点
兵庫県洲本市 2009年7月21日採集
ヒメカノコ 1点
兵庫県洲本市 2009年7月11日採集

◆食野俊男さんより
マダコ 生体1点
貝塚市二色浜 2009年7月31日採集

◆徳原拓海さんより
ナミギセル 生体1点
クチベニマイマイ 生体1点
和泉市松尾寺 2009年8月15日採集

<環形動物>

◆松原寛汰さんより
ウミケムシ 死体1点
男里川河口 2009年9月6日採集

<甲殻類>

◆食野俊男さんより
イシガニ 生体2点
貝塚市二色の浜 2009年7月8日採集

◆大岡海渡さんより
ハクセンシオマネキ 生体1点
近木川河口 2009年8月3日採集

- ◆寺田拓真さんより
オトヒメエビ 生体1点
和歌山県印南町 2009年8月29日採集

<昆虫>

- ◆西本優一さんより
スジクワガタ 成虫1点
貝塚市蕎原 2009年6月下旬採集
- ◆江本大地さんより
クロツヤキマワリ 成虫1点
貝塚市中 2009年7月3日採集
- ◆五藤武史さんより
カシルリオトシブミ 成虫3点
貝塚市蕎原 2009年6月11日採集
イタヤハマキチョッキリ 成虫1点
ヒゲボソゾウムシ属 成虫2点
和泉葛城山 2009年6月15日採集
ヤマトオサムシ 成虫1点
和泉葛城山 2009年7月4日採集
ゴマダラオトシブミ 成虫1点
和泉葛城山 2009年7月11日羽化
ヒメゴマダラオトシブミ 成虫1点
岸和田市牛滝林道
2009年8月18日羽化
ヒメコブオトシブミ 成虫3点
貝塚市蕎原 2009年8月17-21日羽化
- ◆食野俊男さんより
タマムシ 成虫1点
貝塚市馬場 2009年7月14日採集
- ◆吉川優毅さんより
タマムシ 成虫1点
貝塚市木積 2009年7月27日採集
- ◆大岡海渡さんより
コシボソヤンマ 幼虫1点
近木川河口 2009年8月3日採集

- ◆大和倅さんより
クスアオシャク 成虫1点
貝塚市二色 2009年8月13日採集
- ◆喜多義匡さんより
キボシアシナガバチ 巢1点
貝塚市少年自然の家 2009年8月採集
- ◆江本大地・玲子さんより
シオカラトンボ ♂型♀1点
貝塚市加治 2009年8月30日採集

<写真>

- ◆五藤武史さんより
ヒメゴマダラオトシブミ 成虫1点
岸和田市大沢町 2009年7月27日撮影
- ◆山本衣振さんより
ナナフシモドキ♀×エダナナフシ♂の
種間交尾 6点
飼育 2009年8月7日撮影
- ◆左神一也さんより
ムササビ 6点ほか
貝塚市蕎原 2009年9月23日撮影
- ◆食野俊男さんより
ミュビシギ 1点
トウネン 1点
オバシギ 1点
近木川河口干潟 2009年9月21日撮影
カワセミ 2点
近木川潮騒橋 2009年9月21日撮影
ダイゼン 1点
近木川河口干潟 2009年9月27日撮影
ノビタキ 2点
アマサギ 1点
貝塚市麻生中 2009年9月28日撮影
アマサギ 3点
貝塚市麻生中 2009年9月30日撮影

9月4日から23日にかけて、当館多目的室において、五藤武史写真展「貝塚のトンボたち」を開催し、展示した写真22枚を寄贈していただきました。

◆スタッフ日誌

7月12日、大阪府（岸和田土木事務所）と貝塚市が共同で行う近木川クリーンキャンペーンに参加しました（清児橋にて）。自然遊学館を通して申し込まれて参加された方にお礼申し上げます。暑い中、ご苦労さまでした。（拓）

8月3日、当館で博物館学芸員実習が始まり、今年は近畿大学と神戸大学から合わせて6名の学生が実習に励みました。飼育生物の世話から、標本整理、投網の修理、行事の準備・補助スタッフなど幅広い業務を9日間にわたり熱心に行いました。また、各自の興味のあるテーマに沿って、貝塚の自然を調べた成果「学芸員実習生の調べた貝塚の自然」も展示していますので、ご覧になって下さい。（浩）

9月16日、貝塚市稲谷にお住まいの方から、「すぐ近くの山にギンリョウソウが生えている。」と電話をいただきました。ギンリョウソウは、漢字では「銀竜草」。中国では、水晶蘭というそうです。腐った落葉などから養分をとる植物（腐生植物）です。透き通ったような白色でひっそりと立っています。（幸）

9月29日、上久保文貴先生と湯浅幸子さんの東手川植物調査に同行し、湧水の龍王付近でヒナカマキリ♀（大阪府RDB：準絶滅危惧）の写真を撮ることができました。（拓）



ヒナカマキリ♀（体長約12mm）

◆裏表紙

貝塚市半田の見學稔氏から、近木川の歌と津田川の歌を寄稿していただきました。

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2009 秋号 (No. 53)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2009.10.26

この小冊子は市内印刷で作成しています。